

農村振興局長賞

^{くぬぎだいら}
榎平 棚田保全活動推進委員会（山形県朝日町）

^{くぬぎだいら}
「みんなの財産「榎平の棚田」を守る活動から！」

山形県朝日町は、町全体をエコミュージアム(生活・環境博物館)と位置づけ、町民主体のまちづくりを目指しています。「榎平(くぬぎだいら)の棚田」と、棚田に隣接する展望地「一本松農村公園」からの眺望は、私たち朝日町民の共有の財産であり自慢のひ

とつです。もちろん、棚田も一本松公園も、博物館の重要な展示品(サテライト)となっています。

この小高い展望地では、山一面にヒメサユリが群生し、棚田の景観と併せ、住民・企業・NPOそして行政が協力し合って保全活動に取り組んできました。し



かし、見られる側となる棚田は、あくまでも農業生産の場です。きつい勾配と未整備のままの道路と水路、そんな条件の中、見せるための景観を守りながら持続して営農するという作業の裏には、関係者の様々な苦勞や約束事があります。

現在の棚田は、昭和のはじめまで桑畑でした。昭和22年までに、食糧増産のために、水を引き、耕地整理をして水田となりました。その後、長い時間をかけながら、自力で等高線に沿った形で田んぼが整備され、扇を広げたような棚田風景が生まれました。

ところが、近年この棚田の風景に異変が起きました。耕作放棄や転作による畑地化が出現してきたのです。これらの風景を守っていくのは、行政でもNPOでもなく、地域の様々な立場の住民が、関係する団体と一緒に保ち続けていく気持ちにならないと実現などできないのです。

「まずは地域をよく知ることから」

①NPO、改良区、町、県の共同企画で、子どもを対象に、水とくらしの探検隊を開設しています。この取り組みは、地域の歴史的な成り立ちを学び、水みちをたどる探検などを体験し、地域をよく知り、一人ひとりに関心を持ってもらうという狙いで実施してきました。



②農家や非農家はもちろんのこと、街に住む住民やNPO・行政も参加して、地域や棚田の将来を考えるワークショップを開催してきました。

「考えたら実践へ」

①来訪者やイベント時を考えたトイレや、今までの展望地とは違った風景を観るための第二展望台も、みんなの手で造りました。この作業が、関係者だけではなく、地区全体の活動として実践されたことで誇りや自信が生まれました。

②みんなの希望であった「ヒメサユリまつり」を開催することができ、このようなイベント時には、「いきいきクラブ」や「棚田ママの会」が大活躍するという仕掛けも出来上がっています。

■講評

地域住民、企業、NPO、行政など多様な主体が連携した活動によって、棚田の保全がなされ、地域独特の景観が保全されています。この棚田景観を活用した都市住民との交流が、世代間の交流にもつながり、さらに近隣地域へも波及しています。このように活動の幅広い波及効果と多様な主体の参加による景観づくりが高く評価されました。

